様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：　基盤研究（B）海外学術調査
研究期間：　2007～2010
課題番号：　１９４０２０４１
研究課題名（和文）　南アジアにおける女子教育及び女性のライフコースに関する総合的研究

研究課題名（英文）　The Study on Women’s Education and Life courses in South Asia

研究代表者
服部　範子　(HATTORI NORIKO)
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号：　70189570

研究分野：　社会科学
科研費の分科・細目：　社会福祉学
キーワード：　南アジア、ジェンダー、女子教育、社会政策、ライフコース

１．研究計画の概要

本研究の目的は、南アジアにおける女子教育及び女性のライフコースについて、ジェンダーの視点から総合的な現地調査を実施し明らかにすることである。

南アジアにおける女性の現状について、地球規模でこの地域を位置づけ、この地域の類似性に着目して論じる。また、最近の国別に実施されている女性関連の社会的諸政策や実際の取組み状況について論じる。それと同時に、宗教別、地域別、階層別などによる人々の生活の多様性にも着目し分析を試みる。

主たる研究方法は、現地で関係諸機関での情報収集、学校訪問などによる聞取り調査などのほか、女性への聞取り調査や民家訪問による生活調査である。

２．研究の進捗状況

（１）　調査国の変更について

申請時の計画では、南アジア地域の特にパキスタンとネパールの２ケ国について現地調査を実施し、両国を比較検討する計画であった。しかし、研究期間の中間段階（2年間の終了時）で、当初の計画通り現地調査を実施することは困難と判断し、調査対象国の変更をせざるを得なかった。主たる理由は、両国ともに政情が不安定な状態で、特にパキスタンは危険さが増す傾向があり、現地調査には危険が伴うためである。

（２）　これまでの調査概要・成果

①　１年目

南アジアの都市部において、最近の社会的な取組みや女子教育の現状及び女性の生活状況について現地調査を実施した。調査地はインド北部のデリーとボパール及びネパール・カトマンドゥ盆地である。特にインドの都市部では社会的な変化が急激な進行中であった。インド・デリーでは南アジア全体及びインド全体について基本的な情報を収集した。

②　２年目

南アジア北部の農村部・山間部において女性の生活実態や教育状況について現地調査を実施した。調査地は国別・宗教別などの要因に着目し、インド・ウータラカンド州、ブータン、ネパール北東部である。

３ヶ国とも国レベルの政策として女子教育を推進するプログラムが実施されている。識字率や就学率をアップする取組みは、山間部の隅々の地域まで実施されており、教育状況が近年、急激に改善していることが明らかとなった。しかし、山間部の教育を保障するには、教員不足、子どもが親元から離れ寮・下宿生活を強いられる、親の貧富の差により子どもの教育に差異が生じているなど、多様な困難を抱えていることが明らかになった。

③　３年目

南アジア諸国の中でスリランカとモルディブ、また、インドのうちでは南インド、特にケーララ州は、南アジア全体でみると、男女ともに識字率や就学率が際立って高い傾向が見られる。そこで南アジアの南部地域（スリランカとインド・ケーララ州）において現地調査を実施し、教育の現状や、その社会経済的な背景や現状の問題点を明らかにした。

３．現在までの達成度

②　おおむね順調に進展している

(理由)

本調査研究は、研究代表者の当初の研究計画とは、かなり変更せざるを得なかった。これは前述の通り、調査国が政情不安定なため実施困難になったということが大きな要因である。この点について「三人寄れば文殊の知恵」というように、自分では予想外のそれなりの成果を得られたと、一方では思っている。

しかしながら、研究代表者として一研究をみると、研究目的・焦点、研究地域などが漠然と拡散してしまったという不満が残っている。すなわち、南アジアは地理的、気候的、社会経済的条件が、日本よりも大変、厳しい地域である。現地調査にできるだけ多くの本研究メンバーの参加を優先して計画・実施しようとすると、日程調整は容易でなかった。また、メンバーの身体的・体力的な条件により調査地もかなり限定されてしまった。そのため、本人の希望通り本研究を進めることは不可能であった。

４．今後の研究の推進方策

最終年度にあたる今年度は、研究期間中のまとめ作業を実施し、最終的には報告書を作成する予定である。

本年度の現地調査は、本調査期間を通じての研究をまとめるために補足的な調査を実施する予定である。研究代表者としては、どこで何を実施すべきか、よく吟味して残りの現地調査を実施したいと考える。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

① 岩崎雅美、衣生活からみるブータン―伝統服の役割と変容を中心に―、『家政学研究』第 56 巻 2 号、59－68、2010、査読有

② 服部範子・黒川衣代、スリランカ女性の教育と労働―その現状と課題―、『兵庫教育大学研究紀要』第36巻、79－87、2010、査読無

③ 服部範子、南アジアの女性とジェンダー政策、『家族研究年報』第34号、109－124、2009、査読有

④ 服部範子、パキスタン・パンジャーブ州における女子教育の現状と課題、『日本家政学会誌』第60巻4号、371－380、2009、査読有

⑤ 服部範子、ネパール・ネワール族少女の擬似結婚の儀礼―その実態と意味について―、『家政学研究』第55巻2号（奈良女子大学家政学会）、86－94、2009、査読有

〔学会発表〕（計４件）

① 岩崎雅美、ブータン王国の特色について―平成 21 年 9 月の調査訪問から―、奈良女子大学卒業 40 周年同窓会(佐保会館)、2009.10.11

② HATTORI Noriko “Women’s Recent Social Situations in Japan” Debate Program “Women’s Participation in Constitution Assembly: Challenges and Opportunities” Tribhuvan University, Padma Kanya Multiple Campus, Nepal, March 7.’08

③ KANOH Mitsuko, “Domestic Violence in Japan” Debate Program “Women’s Participation in Constitution Assembly: Challenges and Opportunities” Tribhuvan University, Padma Kanya Multiple Campus, Nepal, March 7.’08

④ 服部範子、最近のパキスタンにおける女子教育の動向、日本社会福祉学会第 55 回全国大会（大阪市立大学)、2007.9.23